

以布囊貯糧則是布囊爲裹糧之用自公劉之世已然矣蓋在夏后之世者也

〔日本釋名雜下〕囊 ふうろはふうる、也物を入ればふうる、なりるとろと通ず

〔倭訓栞前編 二十六〕ふうろ 囊をいふ日本紀に囊中玄櫛あり和名鈔に袋亦作帑と見ゆ囊は底

なきもの也袋は底あるをいふ物を入れればふうる、より名とすといへり新撰字鏡に帑をこし
ふうろとよめりこしは腰なるべし顯宗紀人の名韓帑倭帑と見えたれば古へ其製のことなる
稱と見えたり元正紀に朝服之袋といひ文武紀に賜諸王卿等帑様といへるはとのい帑にや土
佐の俗小袋を上指といへるは矢ぼろより出たる名也といへり雅亮抄にひらづ、みのうはざ
しといひ盛衰記にうはざしえたるふうろもたせと見えたり

〔貞丈雜記調度〕一袋と云ハ布帛などにて縫ひたるばかりを云にあらず弦巻の本名ハ弦袋と
云ものさし入る箱を尺袋と云やり戸を入置所を戸袋と云鷹の餌袋は竹籠也公家の近衛の
官人の腰に付る魚袋といふ物ハ箱を鞍の皮にてはり金銀にて魚を作りて付たる物也何れ
も縫たる物にはあらざれども袋と云也

囊種類

〔橐囊輻湊上〕目次

- 一 餌帑 一 琵琶帑 一 笏帑 一 劔袋 一 殿上簡帑 一 弓袋 一 和琴帑 一 侍所簡袋 一 弦袋
- 一 上差帑 一 屠蘇袋 一 柱帑 一 箏帑 一 笙袋 一 宿物帑 一 笠帑 一 笛帑 一 打カ
- へ袋 一 茶莢帑 一 歌帑 一 鉢帑 一 帶帑 一 七寶袋 一 花帑 一 藤網帑

〔橐囊輻湊下〕目次

- 一 宣明帑 一 書帑 一 文書帑 一 燧袋 一 臂帑 一 隨身符帑 一 屏風帑 一 針袋 一 寶順
- 帑 一 雙六調度袋 一 菟褐袋 一 藥袋 一 麻袋 一 柄立袋 一 杖袋 一 鞆袋 一 紗袋 一
- 鎗袋 一 旗袋 一 尺袋 一 驛鈴袋 一 坐袋 一 笠著袋 一 手箱袋 一 載袋 一 母衣袋 一